

## 山崎賢人が世界の豪脚を披露

大阪・関西万博協賛・佐世保競輪開設74周年記念「九十九島賞争奪戦」は、12月19日〜22日の日程で開催される。今シリーズは松浦悠士、深谷知広、佐藤慎太郎のSS班3名が参戦するが、迎え撃つ地元勢も山崎賢人、荒井崇博、井上昌己とこれ以上は望めぬラインナップ。今年のG3開催もいよいよオーストラリア。今年の掉尾を飾るのは果たして誰なのか？また、最終日第9レースにてレインボーカップA級ファイナルが行われる。A級の頂点を決める一発勝負も目が離せない。



山崎賢人

号を引っ提げての凱旋レースとなるだけに、主役を務めるとみるのは当然だろう。競技のケイリンのみならず、本業の競輪でも6月久留米記念で優勝、共同通信社杯で決勝進出など結果を出している。競輪祭は未勝利も先行して世界レベルのスピードを遺憾なく発揮しており、最近の調子も問題は無い。後ろを百戦錬磨の大ベテラン・荒井崇博、井上昌己が固めるのも心強い。もちろん、荒井を中心とする手もある。オールスターでは予選を3連勝で準決

### 佐世保記念は、待った74!

そのスピードは、ハンパ74。一発勝負。

大阪・関西万博協賛  
開設74周年記念佐世保競輪  
九十九島賞争奪戦 GⅢ  
12月19日(土)・20日(日)・21日(月)・22日(火)

佐世保の美しさ、間違い74!!

にコマを進めると、共同通信社杯、競輪祭では優等を果たして、46歳ながらスピードに陰りは見られない。昨年に続き大会連覇を成し遂げる可能性は大いにありそうだ。井上は大会3Vの実績があるし、昨年は荒井をマークして準V。地元勢がレースを支配すれば連対望める。

SS班では松浦悠士が調子上がり。残念ながら今年グランプリ出場を逃がしたものの、競輪祭はVこそならず①①①①③着、12月大垣記念①②③と成績がまとまってきたし、躍動感が甦ってきた感がある。この開催の前に地元の広島記念in玉野に参戦するのでも、更に調子の積み上がりも不思議ではない。いい状態で出走する可能性が高いだけに、有力な優勝候補の一人だ。

深谷知広も今年がグランプリ参戦が叶わなかったが、G3で2Vを飾るなど、随所でパワーあふれる先行で別線を沈黙させていた。競輪祭では準決で落車して、体調が気がかりだったが、12月松山記念は①②②着と不安を一掃している。タイミングよく仕掛けて主導権を握れば勝ち負けに

もう一人のSS班・佐藤慎太郎は、6年連続となるグランプリ参戦を果たせなかった。今年には本意な成績だけだけに、最終戦は結果を出したいところだが、競輪祭で落車して、体調には一抹の不安が残る。タッグを組む菅田孝道は、競輪祭で決勝に進出、12月奈良は3連勝と動きがよい。展開がもつれるようだと怖い存在となろう。

今年オールスター、9月向日町記念を続けて準Vなど、ブレイクした窓場千加頼。持ち味の自力攻撃に一段と磨きがかかっただけに、一発の魅力を秘めている。レース巧者・稲川翔の援護も心強く、近畿勢の動向には注意したい。

中部勢は今シリーズも総合力では劣勢だが、浅井康太は侮れない。ライン手薄の不利を克服して、今年2月高松記念をはじめ3Vを達成している。競輪祭は優等、12月松山記念では二次予選、準決を連勝して調子も良好だ。



松浦悠士

### 万博協賛 九十九島賞争奪戦 出場予定選手

級班	氏名	登録地	期別	競走得点	級班	氏名	登録地	期別	競走得点
SS	佐藤慎太郎	福島	78期	114.13	S2	佐藤真一	東京	79期	93.67
SS	深谷知広	静岡	96期	117.18	S2	國村洋	山口	80期	95.24
SS	松浦悠士	広島	98期	116.03	S2	大矢将大	埼玉	81期	95.91
S1	堀洋	徳島	75期	107.10	S2	春日勇人	千葉	82期	96.33
S1	荒井崇博	長崎	82期	117.88	S2	平沼由充	福島	83期	93.00
S1	井上昌己	長崎	86期	108.36	S2	安部達也	埼玉	83期	98.00
S1	岩津裕介	岡山	87期	110.50	S2	荒澤貴史	北海道	85期	95.14
S1	森慶一	北海道	88期	108.76	S2	藤原憲征	新潟	85期	99.00
S1	五日市誠	青森	89期	103.89	S2	筒井敦史	岡山	85期	102.65
S1	浅井康太	三重	90期	114.66	S2	高原仁志	徳島	85期	102.58
S1	稲川翔	徳島	90期	112.93	S2	小橋秀幸	青森	85期	97.73
S1	村田雅一	兵庫	90期	108.92	S2	三ツ石康洋	徳島	86期	100.40
S1	阿竹智史	徳島	90期	108.53	S2	吉田健市	愛知	87期	96.00
S1	北津留翼	福岡	90期	110.03	S2	岡崎景介	広島	87期	91.13
S1	菅田孝道	宮城	91期	113.31	S2	高津晃治	岡山	87期	95.77
S1	和田圭	宮城	92期	110.61	S2	柳谷崇	岡山	87期	95.77
S1	柿澤大貴	長野	97期	104.21	S2	岡本大嗣	東京	88期	99.95
S1	神田紘輔	大阪	100期	108.09	S2	高橋成英	愛知	89期	90.56
S1	窓場千加頼	京都	100期	112.79	S2	丸山貴秀	秋田	89期	96.68
S1	杉森輝	茨城	103期	111.24	S2	高塩譲次	栃木	90期	95.58
S1	谷口遼平	三重	103期	108.69	S2	藤元裕全	埼玉	90期	92.62
S1	中西大	和歌山	107期	99.10	S2	山中貴雄	高知	90期	96.29
S1	大石崇晴	大阪	109期	104.10	S2	柿沼信也	埼玉	91期	99.20
S1	落澤鴻太郎	群馬	111期	100.16	S2	高橋和也	愛知	91期	100.56
S1	久保田泰弘	山口	111期	101.89	S2	山口貴弘	佐賀	92期	102.16
S1	山崎賢人	長崎	111期	113.80	S2	三谷政史	奈良	93期	97.42
S1	嘉永泰斗	熊本	113期	109.75	S2	佐藤一伸	福島	94期	103.96
S1	坂井洋	栃木	115期	113.64	S2	愛敬博之	愛知	94期	96.10
S1	佐々木悠葵	群馬	115期	113.15	S2	青森	青森	95期	95.33
S1	晝田宗一郎	岡山	115期	103.50	S2	渡辺正光	福島	95期	98.18
S1	阪本和也	長崎	115期	104.24	S2	相川永伍	埼玉	95期	102.55
S1	伊藤颯馬	沖縄	115期	111.81	S2	東龍之介	神奈川	96期	103.68
S1	青野将大	神奈川	117期	107.77	S2	佐伯翔	福島	97期	98.52
S1	貴志修己	和歌山	117期	101.10	S2	小島歩	神奈川	97期	97.28
S1	久田裕也	徳島	117期	105.45	S2	西岡拓朗	広島	97期	98.14
S1	大川剛	青森	121期	99.46	S2	徳永哲人	熊本	100期	103.17
S2	室井健一	徳島	69期	95.42	S2	清水剛志	福井	103期	102.58
S2	水書義弘	千葉	75期	94.74	S2	栗山俊介	奈良	103期	97.70
S2	鈴木幸紀	三重	78期	94.35	S2	新納大輝	鹿児島	103期	97.50
S2	北野武史	石川	78期	100.78	S2	山本紳貴	千葉	107期	97.76

※2024年12月11日現在



荒井崇博

荒井崇博は、今年もオールスター、9月向日町記念を続けて準Vなど、ブレイクした窓場千加頼。持ち味の自力攻撃に一段と磨きがかかっただけに、一発の魅力を秘めている。レース巧者・稲川翔の援護も心強く、近畿勢の動向には注意したい。

中部勢は今シリーズも総合力では劣勢だが、浅井康太は侮れない。ライン手薄の不利を克服して、今年2月高松記念をはじめ3Vを達成している。競輪祭は優等、12月松山記念では二次予選、準決を連勝して調子も良好だ。

### 九十九島賞争奪戦 出場予定選手

氏名	登録地	期別	競走得点	氏名	登録地	期別	競走得点
山崎賢人	長崎	32	113.80	佐藤慎太郎	福島	78	114.13
荒井崇博	長崎	46	116.75	深谷知広	静岡	96	117.18
窓場千加頼	京都	33	112.79	松浦悠士	広島	98	116.03
浅井康太	三重	40	114.66	堀洋	徳島	75	107.10
坂井洋	宮城	30	113.31	荒井崇博	長崎	82	117.88
菅田孝道	宮城	38	113.64	井上昌己	長崎	86	108.36
松浦悠士	広島	34	116.03	岩津裕介	岡山	87	110.50
深谷知広	静岡	34	117.09	森慶一	北海道	88	108.76
佐藤慎太郎	福島	48	114.13	五日市誠	青森	89	103.89

※2024年12月11日時点

## 村田 祐樹 (富山/121期)

9月岐阜記念で2②①③着とブレイクすると、10月富山2①①着ではS級初Vを達成。デビュー以来、先行基本の競走でステージを上げてきた。先行有利なバンクなので、格上相手でも軽視は禁物だ。



## 杉森 輝大 (茨城/103期)

このところまくり兼備の差し脚好調。10月別府G3は①①②⑤着、11月防府記念では1①②⑥着とG3で連続優参を果たしている。伸びがいいので、今シリーズも上位戦で好勝負が期待できる。



## 青野 将大 (神奈川/117期)

寛仁親王牌、競輪祭では、一般戦、軽選抜ながらそれぞれ1勝をあげていて、仕掛けがツボにはまった時はG1でも好走している。12月伊東などF1戦は2V。9月岐阜記念で決勝に乗った実績もあり、準決でも目が離せない。

## レインボーカップ A 級ファイナル

# A 級最強の坂田康季だ

### レインボーカップ A 級ファイナル 出場予定選手

選手	期	身長	所属	得意コース	直近4ヶ月前期得点	直近4ヶ月今期得点	直近12場所成績	総合評価
松本秀之	22	174cm	熊本	A1	93.92	92.21	72 [7]	79
佐方良行	44	168cm	熊本	A1	93.34	101.27	72 [11]	77
坂田康季	26	180cm	熊本	A1	97.12	93.97	75 [2]	83
小嶋敬二	55	175cm	熊本	A1	93.93	101.61	72 [9]	77
棚瀬義大	25	183cm	岐阜	A1	96.27	93.41	73 [4]	77
武藤篤弘	40	167cm	茨城	A1	95.21	102.46	74 [11]	77
梁島邦友	25	166cm	茨城	A1	95.16	96.55	72 [6]	77
橋本智昭	42	174cm	宮城	A1	95.37	99.48	74 [5]	77
小原丈一郎	26	176cm	青森	A1	96.26	102.58	75 [2]	83

来期もA級で勝負駆けになるのは小原丈一郎、橋本智昭、梁島邦友の3人。ここに入ってもVの有力候補となる選手ばかりなので組み立て次第で目標を達成する可能性は高そうだ。ただ、V争いの中心になるのはそろった九州勢で、中でも本命には坂田康季が最も相応しい。メンバーに恵まれたが8月当所MNでの優勝が弾みとなって、以後の快進撃ぶりは目を見張るものがある。特進できてないのが不思議な戦績で、今期だけでV8、目下5連続優勝でA級最強の呼び声も高い。松本秀之、佐方良行の熊本コンビとは割り切って別線勝負で単騎戦となる可能性もあるものの、先行だけでなくまくりでも力を発揮できるようになった現状を考えればハンデにはならぬのでは。8月に続いて10月にも優勝している得意走路でもあるし、勝負所で必ず仕掛けて結果を出す。連係はどうあれ熊本コンビも上位進出は十分。松本も直近の12月別府で先まくりの梁島をねじ伏せてVなど乗れている。



坂田 康季



小原 丈一郎

小原と橋本が組めば九州勢とも互角以上に渡り合える。小原も失格がなければ今期も来期もS級だったはずの選手で、今期は5V、準V3回とA級ではレベルが違う。同じく今期5Vと自力でVを狙える橋本に命運を託されれば一層奮起しよう。しっかりとレースの流れに乗っていい好スタートを決められれば両者でワンツーがあってもいい。梁島は逃げて強い選手なので、武藤篤弘を連れたの積極策は考えられるが、他の自力型に比べてココの動きもできるのが強みでもあり、いざとなれば総力戦で臨む構えだろう。ノルマである3着以内に入ってみせるか。棚瀬義大は、レジェンドの小嶋敬二を背負うだけでなく、このメンバーでは挑戦者の立場だ。今期6Vと素質が開いただけに、自慢のロングスパートで他を沈黙させてしまうかも。そうすれば小嶋にもチャンス。